

令和4（2022）年度入試問題 傾向と対策（生物）

出題形式	試験区分	①マッチング入試（前期・中期）【基礎学力型】、公募制入試（前期・中期）、 ②一般入試（前期 ※）※前期はB・C日程のみ
	試験範囲	①「生物基礎」 ②「生物基礎」、「生物（生態と環境、生物の進化と系統を除く）」
	問題数（概数）	40問程度（大問4問）

(1) 内容概要

「生物基礎」については、生物と遺伝子（生物の特徴・遺伝子とそのはたらき）・生物の体内環境の維持（生物の体内環境）・生物の多様性と生態系

また、「生物」については、生命現象と物質（細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現）・生殖と発生・生物の環境応答（動物の反応と行動、植物の環境応答）の各領域より、空所補充・選択問題として出題する。

(2) 対策

・教科書の内容の基礎・基本を十分に理解しておく。

・表や図を読み解く力を身につけておく。

以上のことを念頭に、授業ノートの復習を行うとともに問題集などで実践力をつけておこう。

令和4（2022）年度入試問題 傾向と対策（化学）

出題形式	試験区分	一般入試（前期 ※）※前期はB・C日程のみ
	試験範囲	「化学基礎」
	問題数（概数）	40問（大問2問）

(1) 内容概要

①化学基礎の物質の構成、物質の構成粒子、化学結合等に関する空所補充・選択問題を出題する。

[出題内容詳細]

純物質と混合物、物質とその成分（化合物・単体・元素・同素体・炎色反応）、物質の熱運動と三態、原子の構造（電荷・質量・原子番号・同位体）、原子の電子配置、元素の周期表、イオン結合・金属結合・共有結合、電気陰性度と分子の極性

②化学基礎の物質質量と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応等に関する空所補充・選択問題を出題する。

[出題内容詳細]

原子量・分子量・物質質量、化学反応式と量的関係、溶液の濃度と個体の溶解度、酸と塩基、水素イオン濃度とpH、中和反応と塩、酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、電池

(2) 対策

化学の基礎である原子の構造、周期律表から物質質量、化学反応式、酸塩基、酸化還元、電池までの範囲を教科書を中心にして学習しておこう。全ての分野から偏りなく基本的な問題が出題されるので教科書を中心に授業ノートを整理しながら学習すればよい。教科書や問題集の例題を繰り返し復習して、基本的な問題が十分に解けるようにしておこう。

令和4(2022)年度入試から、一般入試(前期A日程)において、知識・技能だけでなく読解力、論理的思考力・表現力を測るための記述式総合問題を導入します。

大学に入学すると文章を読んで要約したり、自分の意見を書く授業や課題が多くなります。この記述式総合問題では、その際に必要となる文章を理解する力を測定します。

例題は以下の通りです。ぜひチャレンジしてください。

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あなたの今までの人生を思い出してください。

良いことも、辛い時もそれぞれあったことがわかりますが、辛い時のことがよく思い出されませんか？人は良いことよりも大変だったことをより記憶に留めておく傾向があるようです。

“どうして自分だけ、こんな運命を強いられているのだろう”と、絶望させられる局面もあったかもしれません。それがケガや病気なら、素直に受け止めて治療など対処することが先決です。ただ、人間関係が上手くいかないときの辛さは、たいていの場合、“自分の視点で、自分しか見えていない”場合が多いはずなのです。“自分のことしか……”まではいなくても、“自分が優先”“自分がかわいい”という意識をもとにした発言や行動になっているはずなのです。

その意識が自分に辛さを与えている相手に対して、“この相手は自分を傷つけている”という標識を貼り付け、そして、その意識にある時はこの標識を当事者以外の人にも貼り付けてしまう傾向があるらしいのです。当事者以外の人、自分を傷つける対象としてみてしまい、苦しみが倍増してしまうのです。

この負の連鎖から逃れるためには、この状況を客観視し“自分が優先”“自分がかわいい”という立ち位置を手放し、自分も他人の一人として俯瞰する第三者の立場として見ると気持ちが楽になります。この時は自分も他人も全て他人ですから、自分のためというより第三者の立場として、この人々が何で苦しんでいて、どうすると解決するのだろうか？ と考えることができます。こうすることで、自分をも助けることができる発想を手に入れることができるかも知れないのです。これが他利の心なのでしょう。

このように、誰かとコミュニケーションを採るときも、意識と無意識、自律神経を考慮し、自分よりも“相手を尊重する”という“他利”のスイッチに切り替えられるかどうかが鍵となります。

もっとも、あなたが“他利”スイッチの切り替えができていなかったとしても、反省しすぎる必要はありません。おそらく、全体の9割以上の人々は“他利”で生きようとする意思があるはずなのです。あっても、どのような行動が確実に“他利”になるのか、わからずにいるのです。

もちろん、学校教育では“他人の気持ちを考えよう”と教えています。

特に日本では“自己主張は抑えて、他人に合わせる”ということを家庭でも学校でも子どもたちに指導がちです。ただし、“他人に合わせる”ことが、必ずしも他利に値するとは限りません。

他利とはまず、どんな相手に対しても尊敬の気持ちを忘れないことです。どんな人に対しても、まずは“尊重して接する”ことが、「*感謝経済」の世界では特に大切となります。

誰もが、自己承認欲求や自尊心を持っています。つまりそれは、“自分が自分のままで、他人から尊重されている”という実感を持ちたいとの基本的な欲望です。

マズローの欲求5段階説によれば、自己承認欲求は4段階目に位置しています。1段階目の“食欲”“性欲”“睡眠欲”といった最低限度の生理的欲求、2段階目の生命や身体の危機を避けようとする安全欲求、さらに何らかのコミュニティに所属したいと願う3段階目の社会的欲求が満たされたとき、それらが従属して初めて、次に人々は自己承認欲求を満たそうとするとされています。

世間には、自分の自己承認欲求を満たすために、まるで他人を利用するような言動をしている人々も少なくありません。誰かをさげすんで、相対的に自分の立場を上に乗せようとしたり、自分の褒め言葉を他人に言わせたりするなどです。

しかし、そのような態度をとっていると人間関係は長続きしません。尊敬を感じない相手からは、よほど別の大きなメリットがない限り、人は自然と離れていくからです。

【出典】兼元謙任『感謝経済 他人の成功を支援する』（創藝社）

*感謝経済：他人の成功を支援する人のための経済ネットワーク。

問1 本文をよく読み、筆者は、他利の心を手に入れるにはどのような心構えが必要であると述べているか、100字以内で答えなさい。

問2 これまでのあなたの生活を振り返って、「他利の心」というテーマで、400字以内であなたの考えを述べなさい。

【解答例】

問1

「自分がかわいい」「自分が優先」という立場から離れることが必要である。そうすることで、自分も他人の一人として第三者の視点で全体を俯瞰することができるようになり、「他利」の心を手に入れることができる。

問2

小学校5年の頃、私の担任の先生はよく生徒を褒めた。それも、ほんの小さな心の動きも見逃さずに、瞬時に褒めるのである。「姿勢がいいね」「指がピンと伸びているね」「困難に立ち向かう姿が立派だよ」など、次々に自分の気が付かないところまで褒めまくった。褒められたときはうれしかった。だから生徒たちも先生の真似をして、友達のことを褒めるようになった。しだいに、相手の立場を考えて発言するようになり、不適切な言動は減っていった。気づけば、クラスは本当に楽しく、勉強しやすい場所になっていた。先生とはたった一年間の師弟関係であったが、自分に自信がもて、自分らしさに気づけるようになった。また、どんな人でも自然と相手を受け容れられるようになった。振り返れば、この一年間の経験は、褒め合い、相手を尊重することの大切さを心から理解できた貴重なものだったと思う。「他利の心」を大切に、今後の人間関係でも活かしていきたい。